

南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobihiro.jp/
発行人 脇阪 義幸
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



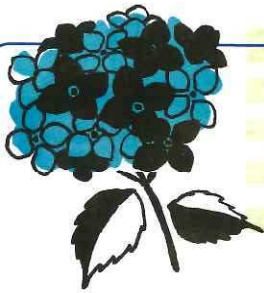
砂上の楼閣

ヒマラヤで採掘された岩塩、ネパールで採れる珊瑚等、身近に手に触れることがあると、ヒマラヤは古代、海の底であったと教えらる。永い歴史の中で想像に絶する大変な地核変動が繰り返された、その片鱗の一つか。日本列島だけが地震列島とは限らない。改めて地球の中核はとてつもないマグマの塊、その威力、エネルギーは飽和状態に達すると、時、所をかまわず爆発、噴き上げてくる。

ここ数年の動きをみても、日本だけで、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本大震災と揺れ続けている。たまたま、随筆家で理学博士でもある寺田寅彦氏の蘊蓄に富んだ一文が「折々のことば」に紹介されており考えさせられた。「文明が進めば進むほど天然の猛威による災害がその激烈の度を増す」と。「洞窟の中で暮らす時代は、じっと潜んでいれば暴風も凌げた。粗末な小屋なら倒壊しても立て直せた。重力に逆らい自然に抗うような施設を造るようになって、建物の倒壊や堤防の決壊に命を落とすようになった。送電線が大規模に施設されるようになると、一地域での損傷が広域を巻き込むようになる。これを宿命として放置していいのであろうか」と。

ところで改めて思うことは、地球上で安心立命の幸せが果たして実現できるのだろうか。人間の叡智を結集して宇宙にまで触手をのぼす限らない欲望の追求。ふと「足下を忘れるなど大地動けり」という念仏者の声がよぎる。立っている足下はどこなのかと思わず問う。それが砂上の楼閣だと言われても返す言葉がない。改めて親鸞聖人にお尋ねすると「本願の大地」に還れとお勧めくださる。地球の大地とは仰せにならない。南無阿弥陀仏が大地だと教えられることを聞き開いていきたい。

(大谷 義博 記)



うらぼんえ
盂蘭盆会のご案内

7月13日(水)～16日(土)：8月13日(土)～16日(火)
朝 8:00 (お朝事のおつとめ)

「盆はうれしや別れた人も晴れてこの世に会いにくる」(じょんがら念仏踊り)

今年も、なつかしいお盆を迎える時季になりました。お盆は、正しくは「盂蘭盆会」といい、「盂蘭盆経」に説かれた物語に基づく仏事です。

子供を育てることで餓鬼道(三悪道の一つ 地獄・餓鬼・畜生)に落ちた目連尊者(釈尊十大弟子の一人)の母を、仏弟子たちに供養することで天上界に救われたという故事によるもので、親の恩を知らされる日でもあります。

お盆が「迎え火」「送り火」でご先祖の一時帰省とするのは、わが国独特の民俗信仰ですが、この古い習慣の心やさしい部分が生き続け、生活に根付いている事実は軽視できないでしょう。

真宗では、この法要を「歓喜会」と呼びます。救われるはずのない私たち凡夫(地獄行きの私)が「なむあみだぶつ」一つで阿弥陀様の国(真実の世界)に生まれさせて頂く(往生)ことが約束されている(誓われている)ことの歓びを、法要名があらわしています。

私がお念仏に出会えたのも、先立たれた方々が「仏法聞けよ、おかげさまの生活をしてくれよ」と願われて、大きなご縁があったことに気づき歓びたいものです。

お盆のいわれに因んでご先祖をうやまい、しのび、訪い、阿弥陀様の国に還られたご先祖や亡き人がよるこばれたお念仏のおいわれを、聞法させていただく日として大切にお迎えいたしましょう。

謡いもの・語りもの芸
「中国曲芸の魅力に迫るⅢ」公演のご案内

中国の「曲芸」は日本とは異なり楽器を奏でながら語ったり謡ったりする説唱芸能であり、日本の「寄席芸」とよく似ています。

この度、中国曲芸家代表団一行10名を招聘した日本中国文化交流協会の希望によって西徳寺本堂でご披露することになりました。

日中両国の芸能を楽しみながら友好と相互理解を深められればと願っています。席数が限られていますが、どうぞ曲芸の魅力をお楽しみいただきたいと思います。

記

- 出演：** 馬小平・李彦生(漫才)・任平(四川清音)・
烏雲桑(烏力格爾)・姜昆・戴志誠(漫才)・查蘭(蘇州評彈)
- ゲスト出演：** 安田登(能楽師)・いとうせいこう(作家)・玉川奈々福(浪曲師)
- 日時：** 2016年7月7日(木) 午後6時30分開演(6時開場)
- 会場：** 西徳寺本堂
- 入場料：** 無料 但し、定員40名
(定員になり次第、締め切らせていただきます。)
- 申込先：** 西徳寺 電話 03-3875-3351 (担当・高橋)
- 主催：** 日本中国文化交流協会
- 協力：** 西徳寺



親鸞さんのことば

南無阿弥陀仏をとらうれば

十方無量の諸仏は
百重千重圍繞して

よろこびまもりたまうなり

『現世利益和讃』

松井憲一

お釈迦様は、人間の愚かさを、「身
愚かに神聞く、心塞り意閉じて、死
生の趣、善悪の道、自ら見ること能わ
ず。語る者有ること無し。吉凶、禍福、
競いて各之を作す。」として怪しむこ
と無し。（『大無量寿経』）といわれ
ます。

これを、高松信英先生は、「ただ無
駄に暮らし、心は暗く塞がり閉じて、
人生の方向や意味を尋ねる人もいな
いし、話題にもならない。ただどうす
れば儲かるか、どうすれば人に勝て
るかという、目先の暮らしに振り回
されて、一喜一憂している。しかもそ
ういう自分を疑ってみたこともない
のだ（『現代語訳大無量寿経』）」と、

現代語訳されます。わたしの姿の一
挙手一投足が、言い当てられて、その
通りと頷くほかありません。

もちろん、儲かるとか人に勝つこ
とだけが、日暮らしの中心ではあり
ません。もつたいないという気持ち
も、おかげさまという感謝の気持ち
もあります。しかし、そのありがたい
という気持ちは、自分にとつて都合
がいい時のみの、一時的な気持ちでは
ないでしょうか。

新聞の投書に、「チヨロ、チヨロ、チ
ヨロ、ストーン。実家の庭の池に兄が
手作りのシシおどしを作ってくれま
した。静かな夜更けにリリリリ……。
すずやかに秋の虫が鳴きはじめまし
た。なんともいえないこの風情。聞こ
えることに感謝します。（中略）この
情景を見させてもらえる目に感謝
します。これらのことを感じること
のできるゆとりで感謝します。それ
なのに、こんな健康な体に生んでも
らっているのに、年老いた母になかな
か感謝できないで、毎日、ぐちばかり
言っています。お母ちゃん、すみませ
ん」というのがありました。
教えに遇わない感謝、懺悔のない
感謝は、自己肯定のひとり相撲にな

ります。省みますと、感謝できないわ
たしが、聞法の時、合掌の時は、南無
阿弥陀仏と自然に称えています。わ
たしの思いで出るはずのないお念仏
が、現にわたしの口から称えられて
いる。この驚くべき事実は、不思議と
いたたくほかありません。それは、祖
父母や両親、先生や知人がお念仏し
てきた声が、諸仏の声として幾度と
なく聞かれ、耳に徹到してきたから
にちがいありません。

「拝むときも、おがまれている。拝
まないときも、おがまれている」とは、
東井義雄先生のお念仏です。拝まれ
ている無限の背景があるから、拝む
こともおこるのです。五濁悪時悪世
界に弥陀の名号をあたえてくださった
『仏説阿弥陀経』が、「称讃不可思議
功德一切諸仏所護念経」と名づけら
れ、「信ずべし」といわれるように、お
念仏は数え切れない諸仏のお護りと
お勧めがあるからこそ、称えられる
のです。南無阿弥陀仏を申せという、
有形無形のうながしが、阿弥陀仏の
呼び声として、また諸仏のお勧めと
して、いまこのわたしに至り届いてい
る事実が、わたしのお念仏になつて
いるのです。

お念仏は、自分の都合をたのみ請
求書や、自分のよさを飾る証明書で
はありません。お念仏は、十方無量
の諸仏にすでに百重にも千重にも圍
繞され、まもられていることの気づ
きであり、請求書や証明書が無用に
なつたよろこびなのです。それで、「南
無阿弥陀仏を称えらると、世界中の数
限りない仏たちが、念仏の人を百重
にも千重にもとりかこみめぐつて、
仏の本意にかなうと、よろこびまも
られる」といわれるのです。



山門の言葉

悲劇的になるのは 自分のことばかり 考えているから

斎藤茂太(精神科医・随筆家)

大地の驚異の中で苦しむ方々が連日放送される中で、この言葉が突き刺さる。明日は我が身に降りかかるかもしれないという不安がよぎりつつ、この悲劇的な出来事に釘付けの日々。

先日、避難所で暮らす女子中学生が手作りの新聞を掲示しているという話題があった。とても素朴なものであったが、その中に「自衛隊の朝ご飯はなんでしょう?」というクイズがあった。

① 白米 ② パン ③ 食べてない。

答えは③だそう。自衛隊の方々に對する彼女なりの最大の感謝と敬意を表現されているのではないだろうか。その彼女の視点に驚かされるのである。極限の中で彼女は新聞を通して気が付いたことを表現していくことが使命として実を結んでいる。

親御さんは、避難所に来てから突然泣き出すことがあり情緒不安定であったが、新聞を出し始めて少し落ち着いたと語る。

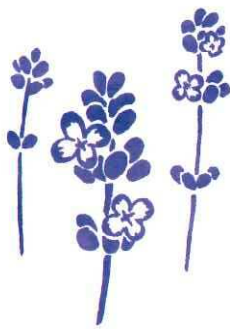
彼女に止まらず、被災された小中高生などが自らボランティアをする姿が取り上げられ、大人達に力を与えていると聞く。テレビ越しではあるがその眼差しは「自分のことばかり考えている」姿には映らない。

果たして悲劇的になっているのは誰なのか。眉間にしわを寄せて大変だとか可哀想といいながら、自分の身に降りかからないことを願うばかりの私のことではないだろうか。

彼らの若々しいエネルギーは、恐怖心や不安ばかりをいたずらに募らせ悲劇的になりつつある私を照らし出す。

この言葉は、テレビの前に座っているこの私に投げかけられている言葉として響いてきた。

(山崎 哲記)



4月16日 定例聞法会・社交ダンス練習会・
混声合唱団「エコー」練習
4月21日 『唯信鈔』に聞く 講師 宗 正元師
4月23日 同行会「現代の聖典」に聞く
法話 脇阪住職

4月26日 仏教青年会総会
4月27日 婦人会総会
4月27日・28日 宗祖忌
4月30日 社交ダンス練習会・
混声合唱団「エコー」練習
5月7日・8日 中興忌



第 321 号

◆ 総会報告

4月27日花冷えの中本堂にて、会員43名の参加のもと婦人会総会が開催されました。勤行後、脇阪住職と大谷最高顧問からご挨拶を頂きました。総会に移り、太田会長からご挨拶を頂き、星野登代子議長の下議事が滞りなく進行し承認されました。

また脇阪住職より、永い間婦人会をサポートして下さった山崎哲法務員から蓮井邦宗法務員へ担当が変更になる報告がございました。

梅檀の間に移り6～10班理事進行のもと懇親会を開き、春色いっぱいのお弁当をいただきました。例年はビンゴでしたが、今年は星野理事ご紹介の真打ちの古今亭菊龍師匠に「崇徳院」を演じて頂き、最後にカッポレを踊って頂きました。会員全員笑いの中、懇親会はお開きとなりました。
(役員 記)



◆ 次回聞法会ご案内

日時 平成28年6月15日(水) 午後1時～3時
場所 西徳寺 星月の間
法話 標語カレンダーに聞く(真宗教団連合カレンダー)
「ただよくつねにみ名となえ ふかきめぐみにこたえかし」
最高顧問 大谷 義博・蓮井 邦宗



◆ お知らせ

総会報告にありましたように婦人会担当が山崎から蓮井君に変更となりました。10年近くに亘り大変お世話になりました。有り難うございました。
(山崎 哲)

◆ ひとこと

姿勢は至誠に通ずる
至誠は姿勢に通ずる
中学校校長先生の言葉です。大切に生きています。
(鈴木 綾子)



掲示板

平成28年6月

4日(土)・5日(日)

仏教青年会研修旅行
(鴨川方面)

11日(土) 午後1時
午後3時15分
午後6時

社交ダンス練習会
混声合唱団「エコー」練習
同行会「現代の聖典」に聞く
法話 大橋 伊知郎

12日(日) 午後2時

城北ブロック会総会・間法会
(川口 リリア)

15日(水) 午後1時

婦人会間法会

18日(土) 午後1時半

定例間法会

19日(日) 午後3時

評議員会総会

22日(水) 午後1時半

『唯信鈔』に聞く

講師 宗 正元師

25日(土) 午後1時

社交ダンス練習会

午後3時15分

混声合唱団「エコー」練習

午後6時

同行会「現代の聖典」に聞く

法話 高橋 淳

26日(日) 午後2時

城東ブロック会総会・間法会

(人形町・香港美食園)

平成28年「熊本地震」に伴う救援金について

西徳寺住職 脇阪 義幸

門信徒 各位

平素は、当寺護持発展のため種々ご協力頂き、誠に有り難うございます。

さて、皆様ご周知のとおり先日の熊本地震では多くの方々が被災され、現地では今も尚ご不自由な生活をしいられておられます。心よりお見舞い申し上げます。

つきましては、西徳寺としましても被災地に対し救援金をお送りすることになりました。すでに4月20日より募金箱の設置をしておりますが、7月末日を日安に救援金の募金を重ねて行いたいと思っております。ご賛同いただける方は、ご協力いただきますよう、よろしくお願い致します。

なお、救援金は郵便振込でも受け付けておりますので、お手数ですが同封の振込用紙にてご送金下さいますようお願い申し上げます。

合掌

記

1. 受付方法：直接西徳寺へお持ち頂くか、郵便振込でお願い致します。
2. 救援先：熊本県に直接送金致します。
3. 期間：平成28年7月末日迄
(※期間終了後も受け付けます)
4. 募金箱の設置場所：本堂(法要時のみ)、寺務所、華香所の3箇所
5. 責任の所在：光照山 西徳寺



えこお志お礼

岡山県 正覚寺 様

愛知県 西村 知津 様

荒川区 高寄 博 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

編集後記

熊本地震が発生してから1ヶ月余りが経ちましたが、被災された方々の生活は復旧作業に追われ、そして今もなお度重なる余震に対する不安と恐怖を抱えての生活を余儀なくされておられます。

西徳寺でも有縁の方へ「救援金」のご協力を呼びかけることとなりましたが、被災者の皆様には一日も早い復興と、心安まる日常生活を取り戻されますことを心から念じ申し上げます。
(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：

 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

 saitokuji@ce.wakwak.com